



かまど体験



季節の行事



季節の展示



三軒長屋の駄菓子屋さん



### 浦安市郷土博物館の基本コンセプト

- 市民参加をモットーとした  
「すべてに開かれた博物館」  
—市民が主体の新しい博物館
- 体験を重視した  
「生きている博物館」  
—新たな市民文化の発信基地
- 何度来ても新しい発見のある  
「リピーターを呼べる博物館」  
—生涯にわたって学習できる施設
- 博物館も学校であると位置付けた  
「学校教育に活かせる博物館」  
—未来の浦安を築くエネルギー源



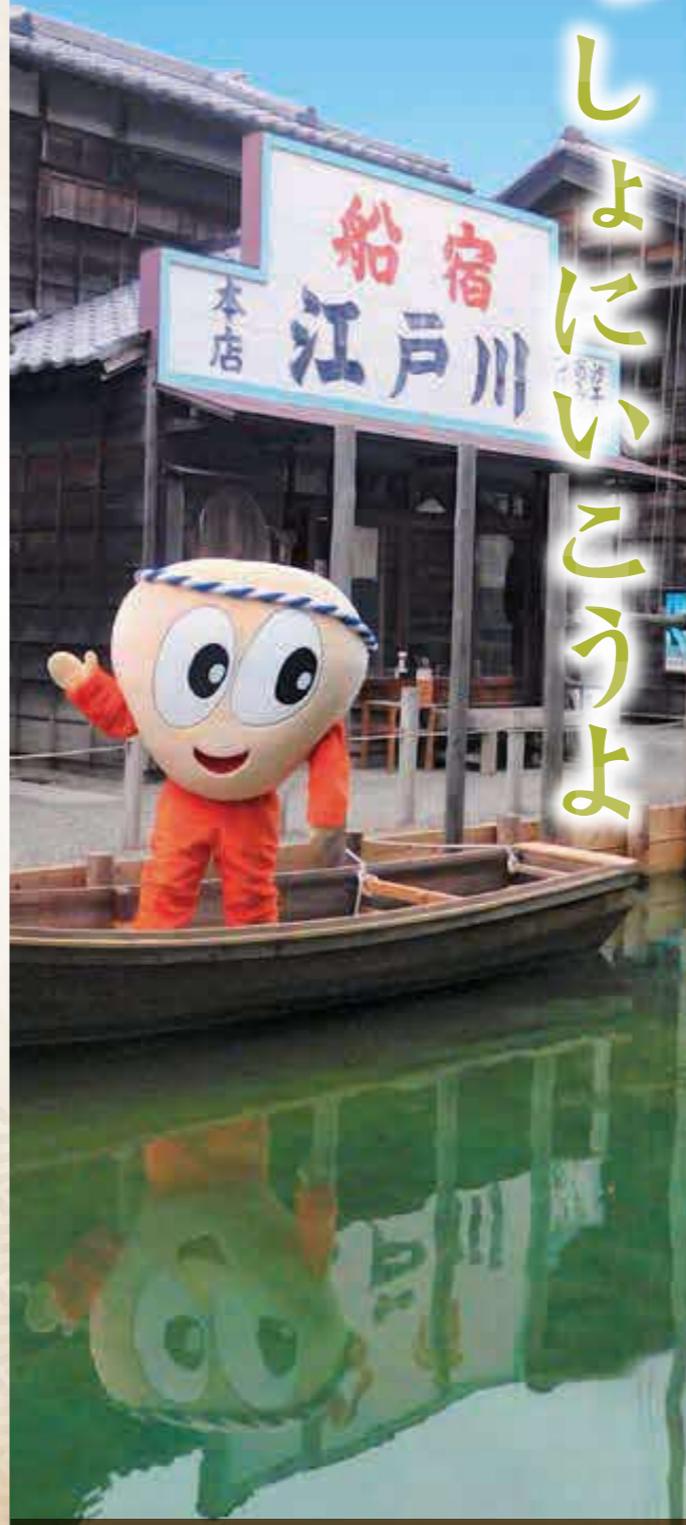
**交通** 東西線浦安駅から舞浜駅行バス⑥にて市役所前下車  
東西線浦安駅またはJR新浦安駅からおさんぼバスにて⑮健康センター・郷土博物館下車  
JR京葉線舞浜駅から、おさんぼバスにて、⑳健康センター下車  
※駐車場は健康センター地下駐車場、または、市役所立体駐車場をご利用ください。

- 開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)
- 入場料 無料
- 休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日にあたる場合はその翌日) 祝日の翌日、館内整理日、年末年始
- 連絡先 〒279-0004 千葉県浦安市猫実1-2-7  
TEL/047-305-4300 FAX/047-305-7744  
E-MAIL/hakubutsukan@city.urayasu.lg.jp



ホームページ

いつしよにいこうよ



## 浦安市郷土博物館

### ごあいさつ

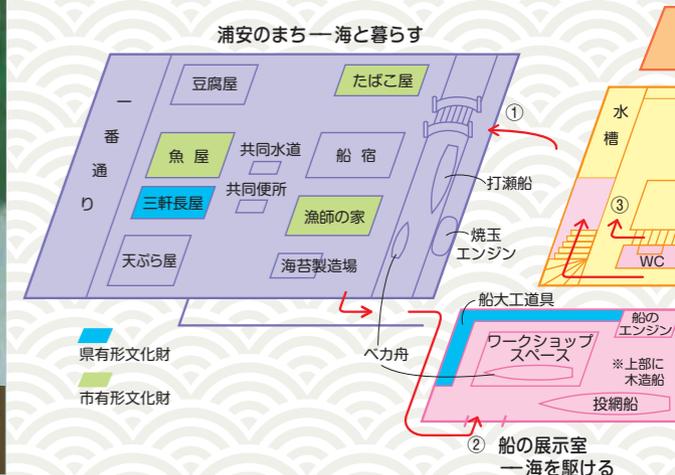
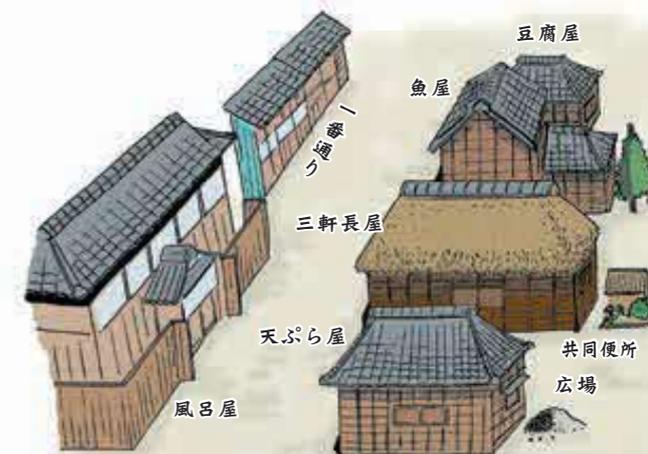
浦安市郷土博物館は、かつて漁業のまちであった頃の浦安の生活文化を知ることができ、さまざまな昔の生活体験ができる体験型博物館として、平成13年4月に開館しました。何度訪れても、新しい発見がきつとあるはず。

まずは自由に見て・触れて・感じてください。館内には、いつも楽しい会話と笑顔があふれています。

あっさり君



郷土博物館マスコットキャラクター あっさり君



## 浦安のまち—海と暮らす

屋外展示場「浦安のまち」では、昭和27年ごろの人情味あふれる漁師町「浦安」を再現しています。暮らしの中心であった清らかな「境川」の雰囲気味わいながら、四季折々の年中行事や昔遊びなどの体験ができます。浦安独特の貝がらの道を踏みしめながらまちを自由に散策し、4軒の移築文化財をはじめとした、各民家を訪ねてみましょう。

### 一番通りにいってみよう

一番通りでは、けん玉やコマなど、様々な昔遊びを楽しむことができます。また、豆腐屋では、パソコンで「浦安のまち」の様々な情報を収集することができます。



### 天ぷら屋に「青べか物語」の資料を展示

この天ぷら屋は、山本周五郎が昭和初期の浦安を舞台に描いた「青べか物語」に登場する「天鉄」をイメージしています。ここでは当時の雰囲気にひたりながら、休憩をとることができます。



### 永い眠りから目ざめた「焼玉エンジン」

この焼玉エンジンは、昭和30年代まで買出し船などの大型船に使用されていました。旧江戸川から引きあげ、3年の歳月をかけて復元したもので、迫力のあるエンジン音を聞くことができます。



### 昔の生活を今に伝える「文化財住宅」

三軒長屋（県指定有形文化財）は、一軒の間取りが「9尺2間（6畳1間）」の典型的な庶民の長屋で、全国的にも貴重な建物です。この他にも、たばこ屋、魚屋、漁師の家は、市指定有形文化財の移築家屋で、当時の人々の暮らしを再現しています。



### ボランティアと触れ合おう

博物館ボランティア「もやいの会」（「もやい」=船と岸を結ぶロープのこと。「人と人、市民と博物館」とのつながりを意味しています。）の皆さんや市内小中学生ボランティア「ジュニア学芸員」が活躍しています。



## 船の展示室—海を駆ける

船の展示室では、漁師の魂（船）と伝統技術の神髄にふれることができます。



ここには、浦安の海で活躍した数種の木造船（投網船、打瀬船、マキ船、小網船、ベカ舟）と、櫓や櫂、エンジン、そして、それらの船を製造するのに使用した、千葉県指定有形民俗文化財である「浦安の船大工道具」を展示しています。また、ワークショップスペースでは、木を使った工作などの体験ができます。

### 浦安を代表する船「ベカ舟」

ベカ舟とは、一人乗りの海苔採り用（ノリベカ）の木造船で、東京湾で使用される船の中では一番小さな船です。板が薄くベコベコすることから「ベカ」と呼ばれたともいわれています。

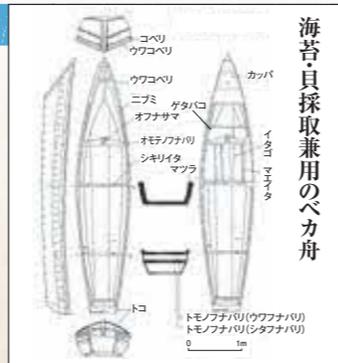
漁業の最盛期には千数百艘のベカ舟が境川や船刈川に係留されていました。



### ベカ舟の詳細

浦安では、杉のアカミ（木の中心部の赤く堅い部分で腐りにくい）だけを使用してベカを造ります。

船の大きさは、ノリベカが長さ約4.5m、幅約90cmで、その後改良され貝採りにも使われるようになったベカ舟は、幅約95cmです。



海苔貝採取兼用のベカ舟

### 船大工道具

木造船の製造には独特な道具が使われました。ここには千葉県の有形民俗文化財に指定されている632点の使い込まれた船大工道具を展示しています。



### 浦安の海を縦横無尽に駆けた船

浦安には数多くの漁法がありました。そのため、船も漁法に合った船が造られ、種類の多いことが特徴です。ここでは貝漁に使われた「マキ船」、大きな柄で風を受けて打を引く「打網船」を見ることができます。また、投網を打ってとれた魚を客に振舞った「投網船」には、乗ることもできます。



## テーマ展示室—海とともに

テーマ展示室では、漁師町時代から、海面埋立事業以降計画的に発展する浦安の様子を、様々な民具・文書資料、ジオラマ（模型）、大型映像などで紹介しています。

「浦安の原風景」「漁師町浦安」「新しいまち浦安」「浦安の自然」の4つのテーマに沿って、海とともに暮らしてきた浦安の人々の営みを知ることができます。

### 浦安の原風景

かつての干潟をジオラマと映像で再現しました。広大さや潮の満ち引きのドラマチックな変化、野鳥や海の生き物たちの世界を体感することができます。

昭和30～40年代に撮影された浦安の風景写真と同時期に録音された音声をお楽しみください。



### 漁師町浦安



浦安が東京湾の魚介類の流通拠点へと成長した経緯や、漁業・海苔養殖・貝加工、稲作やハス作りなどのなりわいを見ることができます。また、漁師町としての繁栄の歩みを知ることができる、地層のはざどり標本、古文書や民俗資料などを展示しています。

### 新しいまち浦安

漁業権を放棄し、海面を埋め立てる決断をした経緯や、高度経済成長期の交通・住宅事業などが追い風となって進められたまちづくりを振り返ることができます。

埋め立て工法の模型、浦安の歩みを振り返る大型映像などを見ることができます。



### 浦安の自然



立地の環境の変化や、市内で観察された植物や野鳥、干潟で生きる多様な生き物たちを、写真や模型を通して知ることができます。

水槽では、境川や東京湾に生息する魚たちを実際に見ることができます。

©Forward Stroke inc.

## 館内紹介

レファレンスでは、浦安に関する書籍をはじめ、クイズ形式で学べる「Q&A 幻の魚にチャレンジ」や、「浦安郷土BOX」「文化財・史跡めぐり」など、パソコンでさまざまな情報を得ることができます。また、ビデオライブラリーでは映像資料も見ることができます。

その他、館内には企画展示室、視聴覚室、体験学習室、ミュージアムショップ、そして郷土料理が味わえるカフェレストランがあります。



企画展示室

視聴覚室

### ミュージアムショップ

郷土博物館マスコットキャラクター「あさり君」オリジナルグッズや、刊行物を販売しています。



### レファレンスコーナー

#### 「Q&A 幻の魚にチャレンジ」

初級・中級・上級コース計300問の中から出題される問題に答えながら、浦安についてのさまざまなことが学べます。

#### 「郷土学習 BOX」「文化財・史跡めぐり」

浦安の自然や人々の暮らし、歴史や文化、市内の文化財と史跡などを学ぶことができます。



### 懐かしき古き浦安

人々が生き生きと暮らす漁師町浦安。その中心には必ず働き者の女性の姿がありました。エントランスにあるレリーフでは、ベカ舟や海苔干し台など、浦安ならではの風景に、女性を中心とした大勢の人々を登場させています。そして、人と人とのコミュニケーション、活気、豊かな自然の恵みが表現されています（富永直樹作）。

### レストラン「すてんぱれ」

抜けるような青空を意味する浦安の方言「すてんぱれ」からネーミングしました。このお店で一番人気のメニューは、郷土料理のあさりめしです。

